

49<sup>th</sup>

令和4年度5月号 [5月13日(発行)]

校訓 自主・協同・創造



# 岸川中だより

川口市立岸川中学校  
川口市安行領根岸374番地の1  
TEL268-4506 FAX268-4761  
特別支援学級 TEL268-7110  
さわやか相談室TEL268-4510  
<https://kishikawa.official.jp>

## 災害級の〇〇〇、...

校長 松田 隆幸

「災害級」の〇〇、.. という表現が最近多いように感じる。東日本大震災から11年経ったが、いつまた襲ってくる自然災害に対しての怠りない準備の必要性を痛感している。というのも、私は友人2人をあの地震で起きた津波で失っている。学生だった頃、見よう見まねでサーフィンを何度か試してみた浜だった。教頭だった時には、実際に現地に行き、中学生・保護者らとともに、大川小学校を見てきた。ことばにならなかった。あの災害の日は、水上の副所長として、天神平のスキーに来た一般のお客様を受け入れていた。東日本大震災ではなく、ほぼ同時に起きた長野県北部地震を経験している。お客様の靴をげた箱に入れようとした時に、靴箱1つ分自分の体が横に動いた記憶がある。慌ててつけたテレビを見ながら、押し寄せて来る津波から早く逃げるようテレビに向かって、「早く逃げて！」と連呼した覚えがある。

5月11日には、当時実家がある福島で、あの揺れを体感した本校の先生が災害についての講話をしてくれた。生徒は生々しい話を聞き、身が引き締まったように見えた。また、縁あって、仙台市立南光台中学校の生徒さんにつながる機会を得ることができた。修学旅行で、東京に行く途中に寄り道していただき、災害の語り部として、中学生自らが体験談や学んだことを本校の生徒に語っていただく。貴重なお話になることは十分の予想できるところである。

「もしもの時に、いつものように」もしものその時は、いつなかわからない。怖いのは、「慣れ」や「どうにかなる」という考え。どうにかなったのなら、死ぬことはなかったはずだと思う。どうにもならないから、どうでもいいのではないと思う。そんな状況下でも、できることはある。何ができるだろうか？そんなことを先日の避難訓練を行いながら考えていた。非常用のトイレ設置が済んだが、防災倉庫のサイズは？そもそも倉庫の設置場所は？地震だけでなく、洪水の時はどうなるのだろうか？そんなことを家でも考えていたら、妻の呼び声が聞こえずに、雷に打たれてしまった次第である。

令和5年岸川中学校は創立50周年  
2023 Kishikawa.J.H.S 50<sup>th</sup> ANNIVERSARY